

都市と農業事例調査
— 二地域居住としての農業 —

2012年11月

財団法人都市化研究公室 光多長温

都市化の進展につれて、都市と農業との関係は浅くなっているが、その中で都会のサラリーマンが定年等を契機に首都圏近郊で農業を営む例が増えている。今回は、茨城県八郷を訪問して、そこで、実際に生活している方々を訪問して、都市居住人間の農業とのかかわり方について考えてみた。

I. 事例

I. Aさん（都会から移住してきた方）

・東京の大手企業で活躍した方。50歳半ばでサラリーマンをやめ、農業者へ。奥さんと二人で移住。東京の自宅はそのまま、子供たちが住んでいる。住民票は移さず。米、野菜、手作りハム・ソーセージを作っている。自宅も自分で建てた。

・田畑を購入して有機栽培（有機農業学校で勉強した）で産直を行っている。有機農業学校で勉強した。



・八郷を選んだのは、まず東京から2時間程度で行けること、戦後間もなくの農村であり比較的歴史が浅い。かつ、昔の風景が残っている。石岡駅からも遠く、交通不便であったこともあり、余り開発されていなかった。



・地域は、セカンドライフ的に農業を営む人には面倒見が良く、排他的ではない。

・動機は、農業が面白いと思った。子供達が自立したこと、田舎暮らしの快適さにあこがれた。有吉佐和子の複合汚染を読んで農産物に関心を持ち、それまで、八郷の一角で展開された「卵の会」に参加したのが契機となった。

・農振地域でもあり、農地購入には農業人（5反歩の農業実績がないと認められない）と認められないと難しい。従って、農地を借りている。住宅部分は農振地域を解除してもら

った。畑と田んぼを借りている。現実的には何ら支障はない。農地を購入する場合は、相場がある。

・参入障壁はあったが、比較的入りやすかった。お客様のままでずっといる。日常的な付き合いはあるが、地域の冠婚葬祭等の行事には参加しない。地域とのなじみはできているし、このままで良いと思っている。地域に人たちもその方が良いと考えているのではないか。

・農業を業とせず、一種の自給自足的なことをやっている。即ち、家族、親せきに配布したり、知り合いの人に売ったりしている。ハムとベーコン等は販売免許を取ったが、余り大きくやるつもりはなく、免許を返した。

・年金と食糧自給とで生計を立てているという構図であり、農業だけで生活していけるわけではない。しかし、都会のストレスもないし、快適。農業も、全部自己流で、失敗の連続であるが、それも面白い。



2. Bさん（地元の専業農家）

・八郷で育ったが、戦争中に、満蒙開拓団で満州に行き苦労して帰国して八郷に帰郷した。戦後は、トマト畑、酪農等何でもやった。特に、酪農は良い時には良い暮らしができた。

・その後、梨の栽培に移行した。梨は、幸水、豊水、新高等の種類をやった。価格は高い時の半分で1個100円くらい。農薬問題の指導等、いろいろな面で農協が支えてくれたのは事実。農協が買い取ってくれるが、農薬、機械代等でいろいろ経費がかかるのは事実。

・梨の作業は防虫等大変で、かつ農家が高齢化している（平均年齢70歳以上）作業の補助を頼むと、（梨の栽培作業は大変で人気がないため）通常のバイトの30%増しとなる。ただし、農協以外に売ると、足元を見られて安く買いたたかれる。

・梨は、幸水、豊水は、最初は実りが良いが、50年くらいで実りが少なくなる（20世紀は



100年でも実がなる)。新しい時は、罹病率が低いし、実もなる。梨農家は10年前は300軒あったが、現在は100軒以下と、急激に減少しており。あと、3年くらいで更に半分になると考えられる。最近の新品種として、アキヅキ、やニッコリ（栃木県で考案された、やや大きめのもの）がある。これらは、1個500円を目標としている。梨栽培は大変ではあるが、梨栽培を辞める際には病気の問題もあり、根を切らなければならない。廃園にすると、1反歩30万円くらいかかる。リンゴに比べて保存は利かないし、消費者の嗜好度が下がっている。大規模化すれば東京の人で農業をやりたい人がいるのは事実であるが、農業法人がやることはあり得ない。

- ・ 農業者年金と農業収入で、厳しいが、なんとかやれている。

3. Cさん（都会から移住してきた方）

・ 東京でサラリーマンをやっていたが、定年後に移住してきた。現役時代（定年前）に雑種地を購入し、3～4年前に農地をさらに買い増した。



・ 動機は、「農業だったらやれる」というもの。家族は、東京で単身赴任。東京から、車でも電車でも1.5から2.0時間くらいなので週末に来れる距離。

・ 農地を取得できるためには、農業者に認定される必要がある。そこで、5反歩借りて農業をやって実績を作った。住民票も移した。その上で、農業委員会に農地購入の申請を出して認可され農地を購入した。農地の世間相場がある。



・ 家もすべて自分で作った。養鶏がベースとなっている。養鶏が収入のベースとなっている。餌を工夫している。野菜、青物等でたんぱく質を多く与えている。烏骨鶏も飼育している。卵は東京の洋菓子屋が購入することとなり、単価も高く、販売ルートも確立している。

・ 自家消費（実家、親類等）を別として一定の収入がある。年金＋自家消費＋若干の売り上げで何とかなる、直売場や「ゆりの里（石岡市が指定管理者制度によって経営する温泉ランド。そこに付随する地元産品の直売場）」でも売っている。手数料は15%。

・個人的な付き合いはあるが、基本的には地域住民の方々との付き合いはない。その方がお互いに良いのではないか。

・定年後に農業をやる場合には、準備期間がある。それには5年くらいかかる。余り条件の良くない土地を購入してそれを育てていくしかない。中には陶芸で生計を立てている人もいる。自分の家を建てる等、地域で信用を得ることが第一。



3. Dさん（元地元農協職員）

・元、農協職員で農業研修（特に、有機農業）を担当していて、定年後はNPO法人を設立して引き続き地域外の方々の農業研修を行っている。その成果として60名以上の方が移住してきて八郷で農業をやっている。

・八郷農業の特徴は、多品目（果実、野菜、畜産、養鶏等）であること。米作は少ない。有機農業をはじめとして、農業の高度化を行っている。

・八郷農協は全国の農協とは異なったやり方をしている。指導を行ったり、産直をやったりしており、農協の地域における貢献度は高い。また、加工工場も持っている。生協やスーパー等に自らの販売ネットワークを持っている。

・15年ほど前から、農協所有の農場で、研修指導も行える体制を整えている。指導を行っている。50から60品目の指導を行っている。有機農業で盛んな全国農協のベスト3に入っている。若い人で新規に収納する人をターゲットにしている。現在までに15組60人が新規就農している（添付資料参照）。有機農業者の3/4が他地区から来た人である。また、有機農業者が毎年3から4人入ってきている。これらの人たちに対して、農協が生産技術及び販売のサポートを行っている。

・国の就農青年後継者制度が今年からスタートした。補助金として、年間150万円を5年間続ける。八郷では、農協が15年前からやっている。

・農協の研修・指導の延長線上としてNPO法人が、研修業務を引き続きやっている。市から小学校廃校を指定管理者として運営し、食と農の体験を行っている。市内と県内からの客が多い。

・生協だけで年間1,500人位が来ている。その他にも通常の受け入れもある。農協とタイアップして、やっている。例えば、浦安中学校は6人づつ農家で田植えや稲刈り体験をやっている。また、東京の中学校が飯盒炊飯や農業体験をやっている。学校側でもカリキュラムに入れている（総合学習科目）。農協の中に有機農業部会を設置して、有機農業や新規就農支援を行っている。

4. 笠間クラインガルテン

- ・借料年間 40 万円。50 戸。現在、ほぼ満杯。
- ・5 年間契約、その後は 1 年更新であるが、希望すれば延長可能。全国で 20 か所のクラインガルテンがある。
- ・典型タイプは別荘タイプの延 20 坪程度の家と、15 坪程度の農地が一体となっているもの。近くに、区画農地があり、希望により借りることは可能。典型的な二地域居住。週末だけに来る人もいれば、住み着いている人もいる。



II. 都市と農業へのまとめ

- ・茨城県石岡市八郷における二地域居住のさまざまな形態を見て都市住民が都市周辺で農業を行うことについて、次のようなことを考える必要があると感じた。
- ① 定年後に、近郊で農業を営む場合は、定年前から数年間の助走期間が必要である。農業研修、適地における準備運動的なことを含めてである。
 - ② 都市近郊とはいえ、農業地域には、さまざまな人間関係、地域の絆がある。新規参加者が、これに安易に入るとは良い結果をもたらすとは限らない。寧ろ、一定の距離を置きつつ付き合うことの方が良い結果をもたらすともいえよう。勿論、日常的な付き合いは別である。
 - ③ 農地の権利関係においては、それほど大きな問題ではない。農地自体が耕地者が不足していて、望めばいくらでもあると言えよう。敢えて、農地を所有するとすれば、農業委員会での承認が必要で、その場合、農業者認定が前提となる。借地にしておいて、耕地しても、農地を取得してもそれほど大きな問題ではないのではないかと考える。
 - ④ 農業で生計をたてると考えると簡単ではない。基本は、趣味で農業を行うことである。家族や、知人に農作物を分け与えるか、一定の需要があれば、販売するだけで、販売努

力を行って生計をたてることを考えるとまず難しい感じがする。要は、年金＋自家消費＋エクストラの収入という考え方が必要であろう。皆さんにお話を伺って、サラリーマン時代と比べて、日本の伝統的な景色と、生産の楽しみを味わっておられてそのすがすがしい顔つきにうらやましい感じがした。

- ⑤ 必要なことは医療体制の整備であると考えている。ある程度高齢者が移住してくると考えると、体調不全の場合の対応を自治体が行っていくことが必要であろう。

以上